

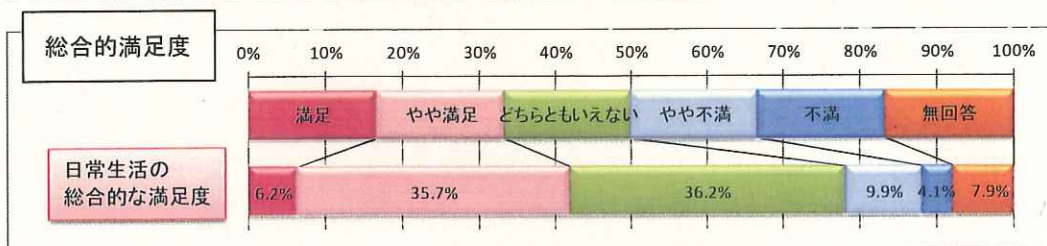
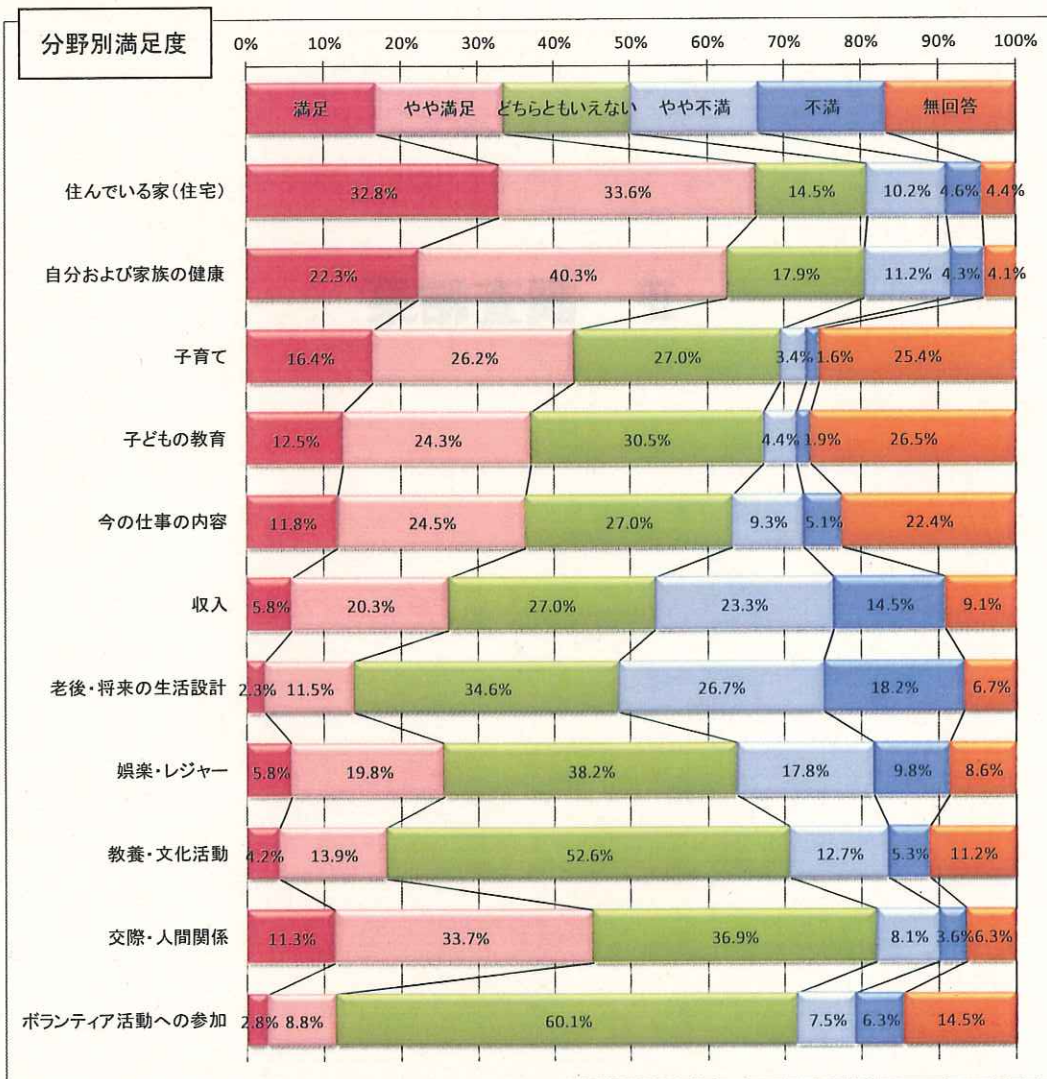
# 1. 日常生活の満足度など

[問1・2]

日常生活についての満足度についてお聞きします。

(それぞれ該当するものに、1つ○印をつけてください。)

(全体：単純集計) n=1,701

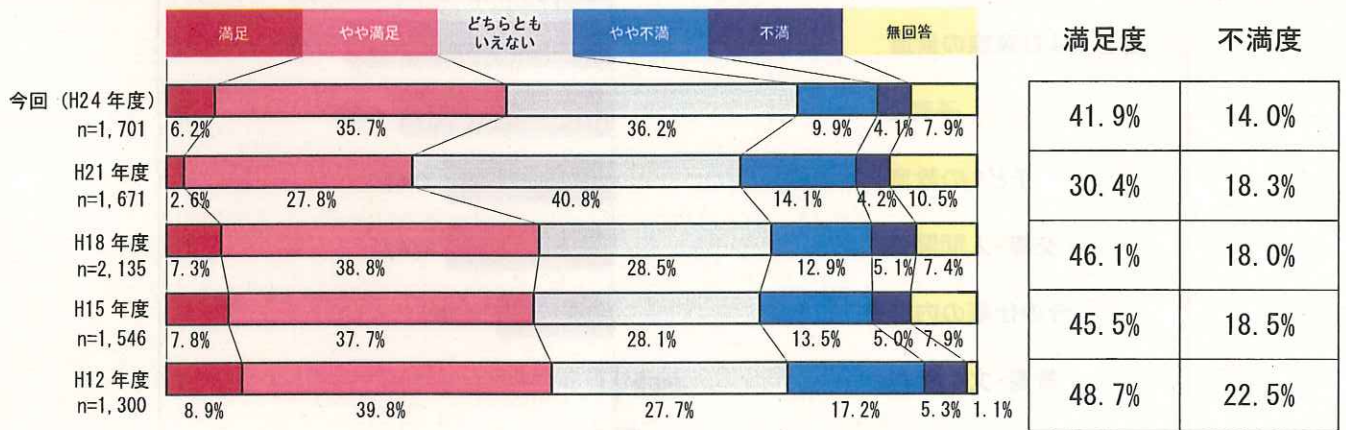


## 日常生活の総合的な満足度

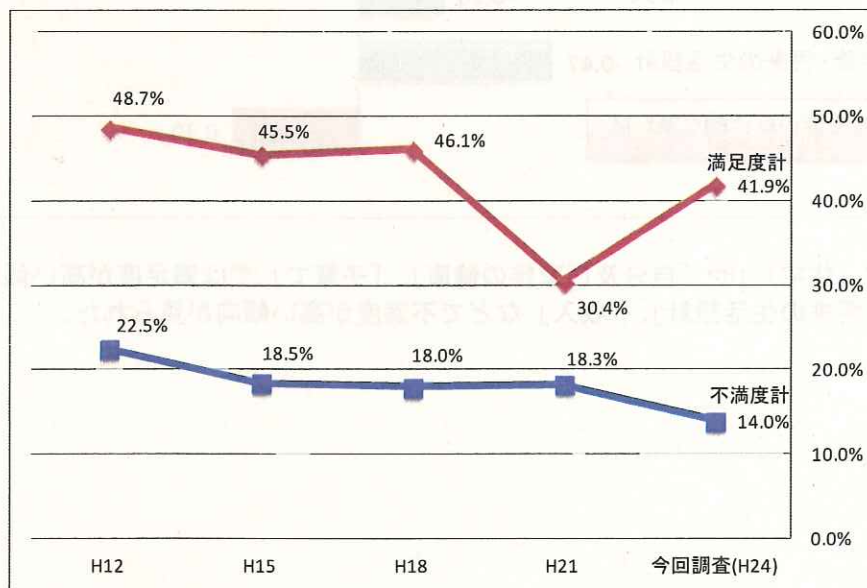
- 日常生活の総合的な満足度は、「満足」「やや満足」の合計（満足度）が 41.9%、「やや不満」「不満」の合計（不満度）が 14.0%と、満足度が不満度を大きく上回った。

### [経年比較]

- 前回調査（平成 21 年度）と比較すると、満足度が 11.5 ポイント上昇、不満度は 4.3 ポイント低下した。これは、前回調査が世界同時金融危機以降の厳しい経済雇用情勢の中で行われ、調査当時、一時的に県民の満足度が低下していたことが変動要因と考えられる。
- 平成 12 年度からの経年変化をみると、満足度・不満度ともに低下傾向にあり、「どちらともいえない」が増加傾向にある。満足度の低下要因としては、依然として厳しい雇用情勢や先行きの見えない社会保障制度、人口減少や少子高齢化の進行など、日常生活全般に対する不安感が根強いことが考えられる。



### [満足度計と不満度計の経年変化]

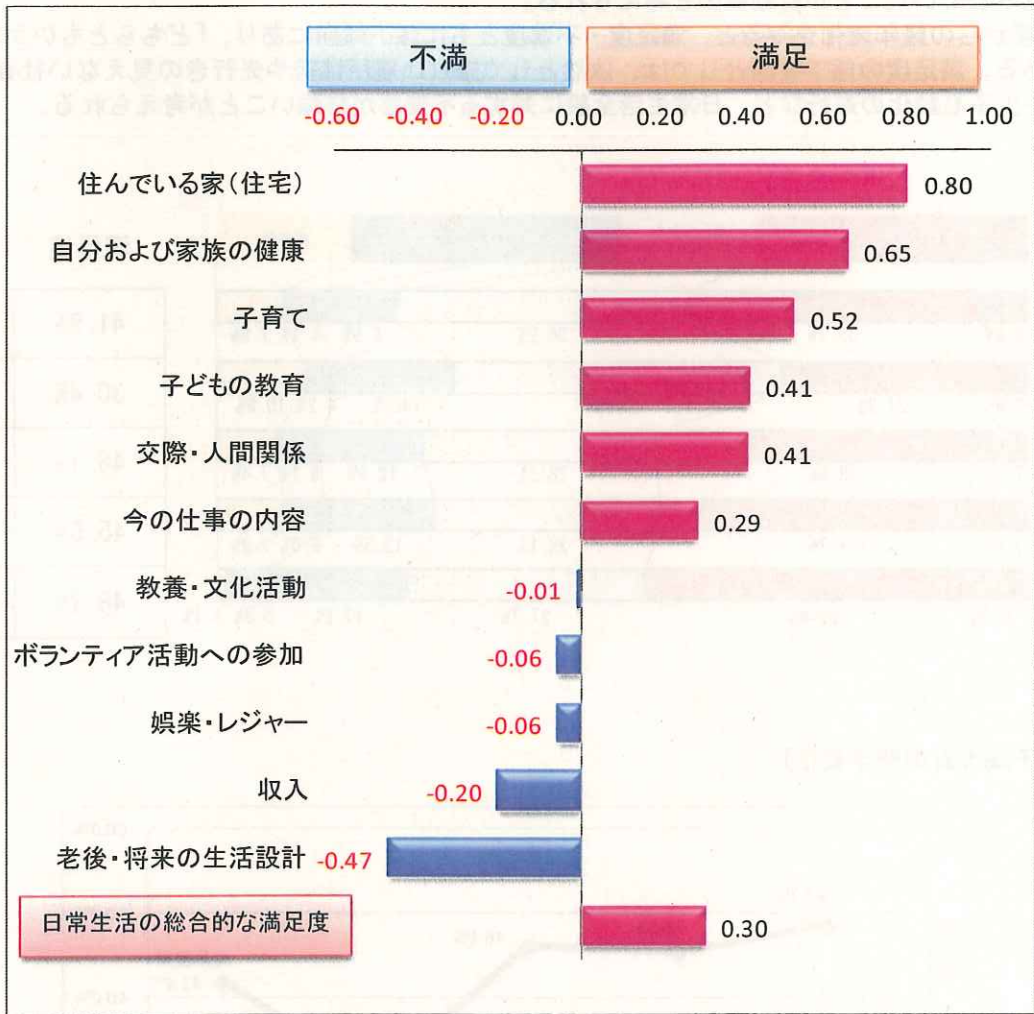


## 日常生活の満足度（分野別）

**[指数化]**

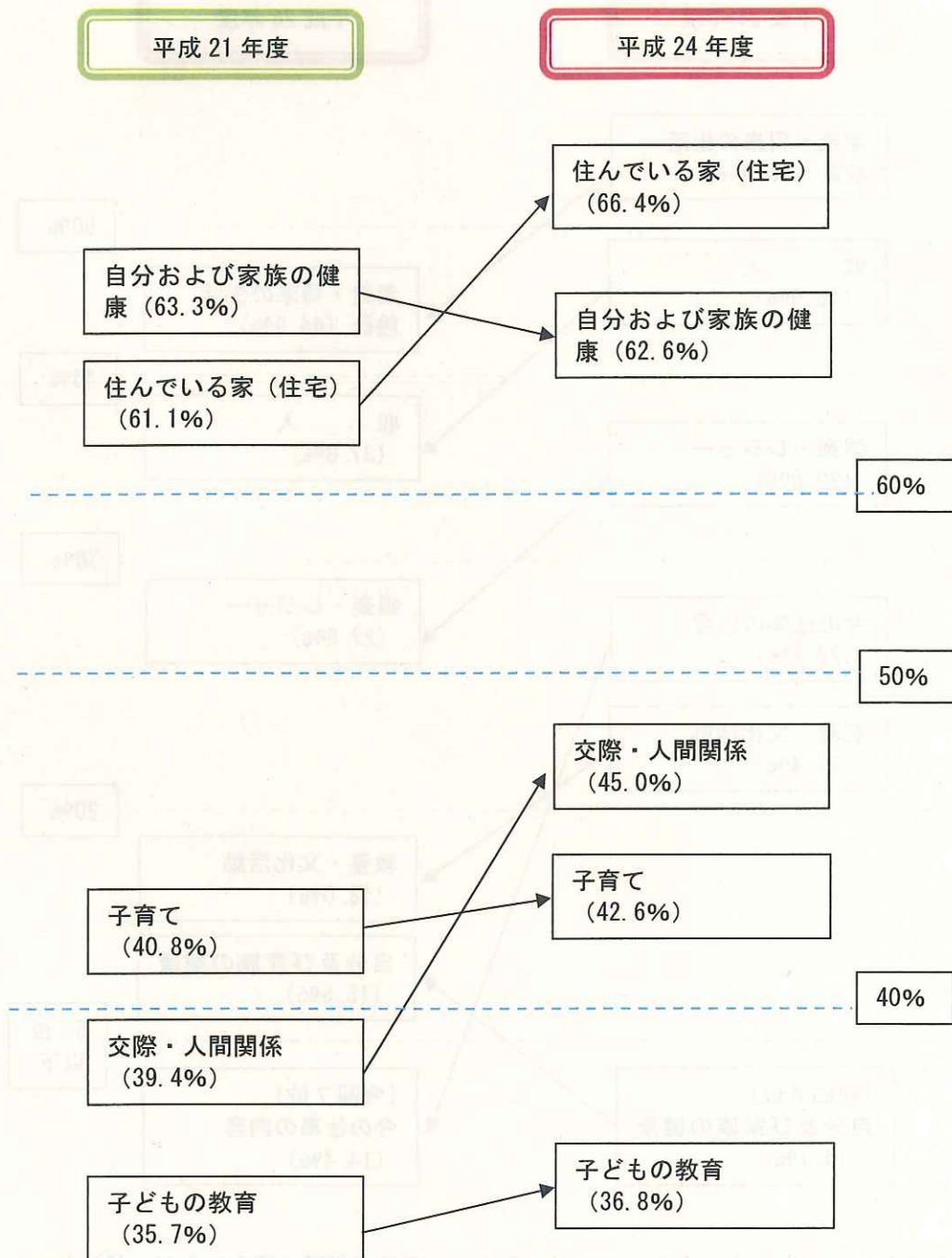
日常生活の満足度・不満度の総合的な傾向をみるため、分野毎に指数化し順位付けを行った。

満足=2、 やや満足=1、 やや不満=-1、 不満=-2



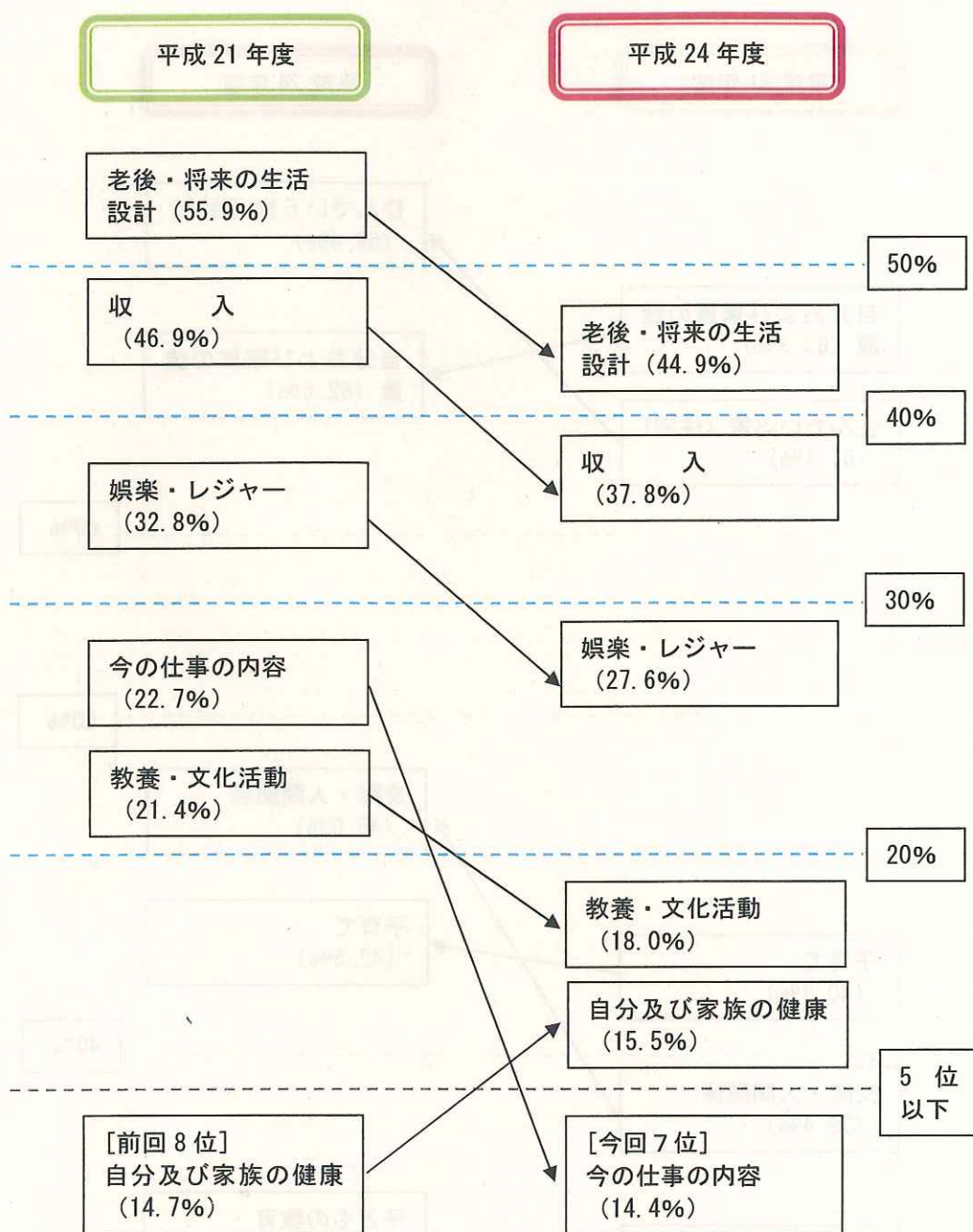
「住んでいる家（住宅）」や「自分及び家族の健康」、「子育て」では満足度が高い傾向が見られた。一方、「老後・将来の生活設計」、「収入」などで不満度が高い傾向が見られた。

「日常生活の満足度」上位項目の前回調査との比較



- ◆満足度上位5項目の経年変化では、順位に大きな変化はなく、満足度が全体的にやや上昇傾向にある。
- ◆満足度が最も高かったのは「住んでいる家(住宅)」(66.4%)で、次いで、「自分および家族の健康」(62.6%)と、ともに満足度が6割を超えている。
- ◆この他、「交際・人間関係」(45.0%)、「子育て」(42.6%)などで比較的満足度が高くなっている。

「日常生活の不満度」上位項目の前回調査との比較



◆経年変化を見ると、順位に大きな変化はないが、全体的に不満度が減少傾向にあり、特に「老後・将来の生活設計」及び「収入」の不満度は10ポイント程度低下している。

◆「収入」の不満度は、20歳代で48.1%と特に高くなっている。

◆「老後・将来の生活設計」の不満度は、「パート・アルバイト・派遣・嘱託」が57.3%と最も高くなった。